

50th Anniversary Magazine

これまでの軌跡から未来へ



男鹿地区消防一部事務組合50周年記念誌
1973 - 2023

目次

挨拶と構成市村の紹介	1
管内図と庁舎	3
構成市村の四季	5
年表と沿革	7
業務紹介	11
過去から未来へ	17
スナップショット	19
あとがき	21





Administrator
管理者

Kouji Sugawara
菅原広二

50周年にあたり

この度、男鹿地区消防一部事務組合は発足より、50年という記念すべき節目の年を迎えました。これまで、当組合の消防行政発展のために御尽力を賜りました関係各位に心より感謝申し上げます。

男鹿地区消防一部事務組合は、昭和48年6月1日に1本部・1署・4分署、職員定数80名で発足し、以後、昭和・平成・令和と移り行く中、各時代のニーズに合わせ、組織体制の変遷、施設装備等を含む消防力の強化・拡充を図りながら、半世紀を経て現在の体制へと発展してまいりました。

近年、社会情勢の変化、気候変動により、火災をはじめとする災害や風水害等の自然災害、また記憶に新しい感染症や熱中症による救急需要の増加を含め各種災害の様相は複雑多様化しております。今後、発生が危惧される日本海秋田県沖における地震への備えなど、頻発・激甚化する様々な災

害への対応能力がこれまで以上に求められており、消防が果たす責務は極めて重要で、地域住民の皆様から寄せられる期待もより一層大きくなってきております。こうした皆様からの負託に応えるべく、常に先見の明を持ち、地域に根ざしたきめ細やかな消防行政の推進に勤しんでまいりま

す。皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、発足50年にあたっての挨拶とさせていただきます。



Union chairman
組合議長

Tomikatu Hatakeyama
畠山富勝

50周年を祝して

男鹿地区消防一部事務組合発足50周年にあたり、記念誌が発刊されることに、組合議会を代表いたしまして、心からお祝いを申し上げます。

また、職員の皆様方におかれましては、地域住民の生命、身体及び財産を火災・風水害などの各種災害から保護するとともに、また被害を最小限にとどめるため、日夜献身的に任務に精励され、御尽力いただいておりますことに心から敬意を表する次第であります。

男鹿地区消防一部事務組合は、昭和48年6月1日に発足して半世紀を迎えましたが、これまで消防署所の整備、消防車両や装備資器材等の更新・充実を図り、近代消防としての体制を整備するとともに、職員の不断の努力により消防力を構築してまいりました。組合議会といたしましては、今後

も災害に強く安全で安心な地域社会づくりに向けて、執行部、関係機関と連携し災害対応能力の充実・強化をさらに推進してまいります。結びにあたり、本記念誌発刊に御尽力いただきました関係各位に感謝申し上げますとともに、男鹿地区消防一部事務組合のさらなる発展と、皆様方のますますの御健勝と御活躍を御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、発足50年にあたっての挨拶とさせていただきます。



Oga City
男鹿市

人口 24,791人
面積 241.09 km²



日本海に突き出た半島で形成され、総面積の約1/3が国定公園に指定されており、奇岩奇勝が連なる海岸線、水平線を赤く染める美しい夕陽、男鹿のシンボルである寒風山からは大パノラマが望める等、壮大で風光明媚な景観美を堪能できます。

また、古より伝わる「なまはげ伝説」の郷として、ユネスコ無形文化遺産にも登録されており、厳かで歴史と伝統の息吹が感じられます。



Katagami City
潟上市(旧天王町区域)

人口 21,629人
面積 41.41 km²



平成17年に近隣3町が合併し誕生。面積が県内の市では最小となるコンパクトシティです。

秋田平野北辺部の穀倉地帯として田園風景が広がり、遠浅で透明度はよく、県内外問わず多くの人々が訪れる出戸浜海水浴場や出羽丘陵の緑豊かな山なみ等、豊かな自然環境に囲まれながらも、県都秋田市に隣接したベッドタウンという都市的な特徴を併せ持っています。



Ogata village
大潟村

人口 3,010人
面積 170.11 km²



かつて、日本の湖で二番目の広さを誇った八郎潟。戦後の食料不足解消のため、国の干拓事業として、日本の土木技術を結集し誕生したのが大潟村です。

その肥沃な大地には、燦々と太陽の光が降り注ぎ、豊富な水資源が相まって、沢山の農産物の恵みをもたらしてくれます。

また、大潟村を走る県道沿い11キロにわたって咲く桜と菜の花。桜のピンク色、菜の花の黄色が織りなすコントラストは訪れる人を魅了します。



Head quarters · Head office
本部・本署

男鹿市船川港船川字海岸通り 2-12-7



North branch
北分署

男鹿市北浦北浦字種田 69-3



East branch
東分署

男鹿市脇本脇本字上谷地 130-1



Tenno branch
天王分署

湯上市天王字蒲沼 99-5



Tenno South branch
天王南分署

湯上市天王字北野 1-18



Wakami branch
若美分署

男鹿市鶴木字下湊端 212



Ogata branch
大湊分署

大湊村字東 2 丁目 2-2





昭和

平成

男鹿地区消防一部事務組合 7 五十周年記念誌

男鹿地区消防一部事務組合 8 五十周年記念誌



1984 3月
消防本部・消防署新庁舎に移転し業務開始



1983 5月
日本海中部地震 M7.7 死者 104 名

1983 2月
ホテルニュージャパン火災 死者 33 名 負傷者 34 名
羽田沖日航機墜落事故 死者 32 名 負傷者 138 名



1982 3月
三点セットを配置 大型高所放水車・大型化学車・泡原液搬送車

1982 11月
栃木県川治プリンスホテル火災 死者 45 名

1980 9月
大潟分署新庁舎が完成し業務開始



1979 6月
救助隊発足

1977 4月
天王分署・若美分署新庁舎が完成し業務開始



1973 6月
組合消防発足

1974 4月
天王分署・若美分署新庁舎が完成し業務開始

元号が「平成」に改元 北分署新庁舎に移転し業務開始



1989 1月
音楽隊発足

1990 3月
東分署新庁舎に移転し業務開始



1994 6月
救急救命士第 1 号

1994 12月
水難救助隊発足



1991 6月
長崎県雲仙普賢岳大火砕流 死者 43 名

1993 7月
北海道南西沖地震 M7.8 死者 202 名 行方不明者 28 名

1995 1月
阪神・淡路大震災 M7.2 死者 6,434 名 行方不明者 3 名

1995 3月
東京地下鉄サリン事件 死者 13 名 負傷者 6,000 名以上

1995 3月
大潟分署新庁舎に移転し業務開始



1998 4月
秋田県消防防災航空隊派遣第 1 号

1998 4月
天王南分署新庁舎が完成し業務開始

1999 4月
寒風山林野火災 75ha 焼失 発生から約 15 時間後鎮火

2001 4月
アメリカ同時多発テロ事件 死者 3,025 名うち消防職員 343 名 負傷者 6,291 名

2001 9月
新宿歌舞伎町ビル火災 死者 44 名 負傷者 3 名

平成

令和

男鹿地区消防一部事務組合
9
五十周年記念誌

男鹿地区消防一部事務組合
10
五十周年記念誌



■消防隊

地域住民の生命、身体、財産を火災等から保護し、その被害を軽減することを目的としています。常に災害の最前線に立つ部隊として、日々訓練を実施し専門的知識と技術の習得に努め、地域社会の安心安全を確保する要として、各種災害に対応します。



一斉放水



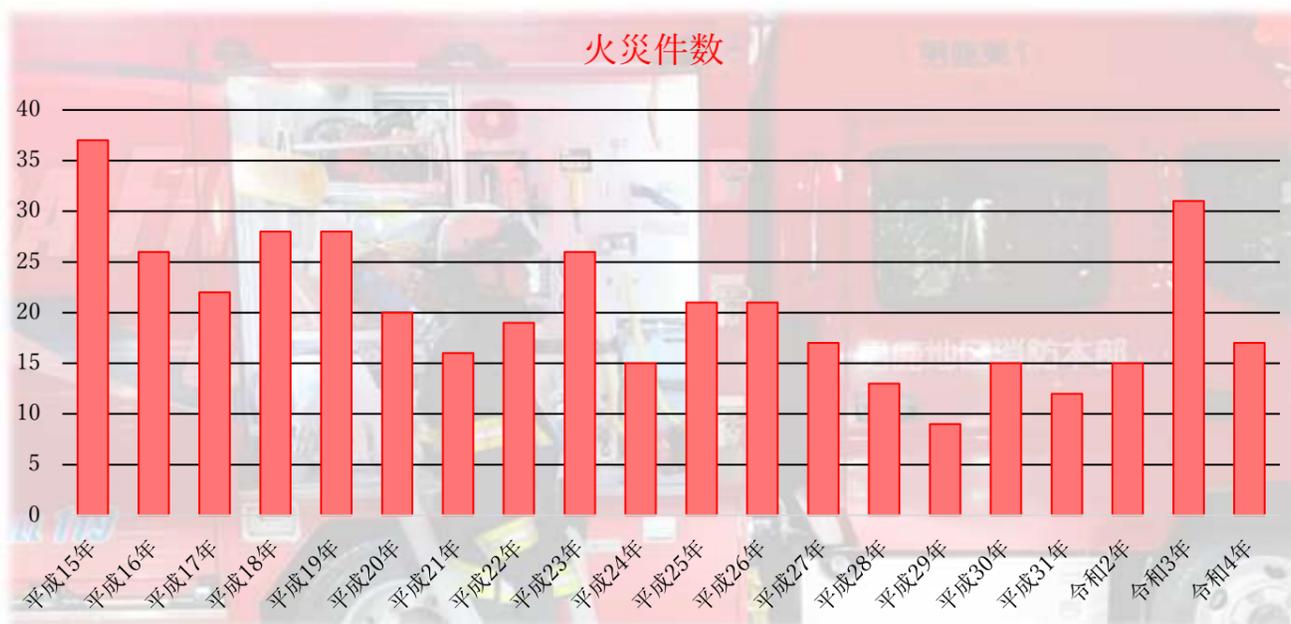
現場活動



トンネル内交通事故救助訓練



空気呼吸器装着訓練



■救急隊

救急現場に駆けつけ傷病者の生命の危機に対応し、高度な救命スキルで観察、処置を実施しながら迅速に医療機関へと搬送します。病院前救護「プレホスピタルケア」の重責を担い、地域住民の命を繋ぎとめる使命を果たすため活動しています。



心肺蘇生訓練～救急車内～



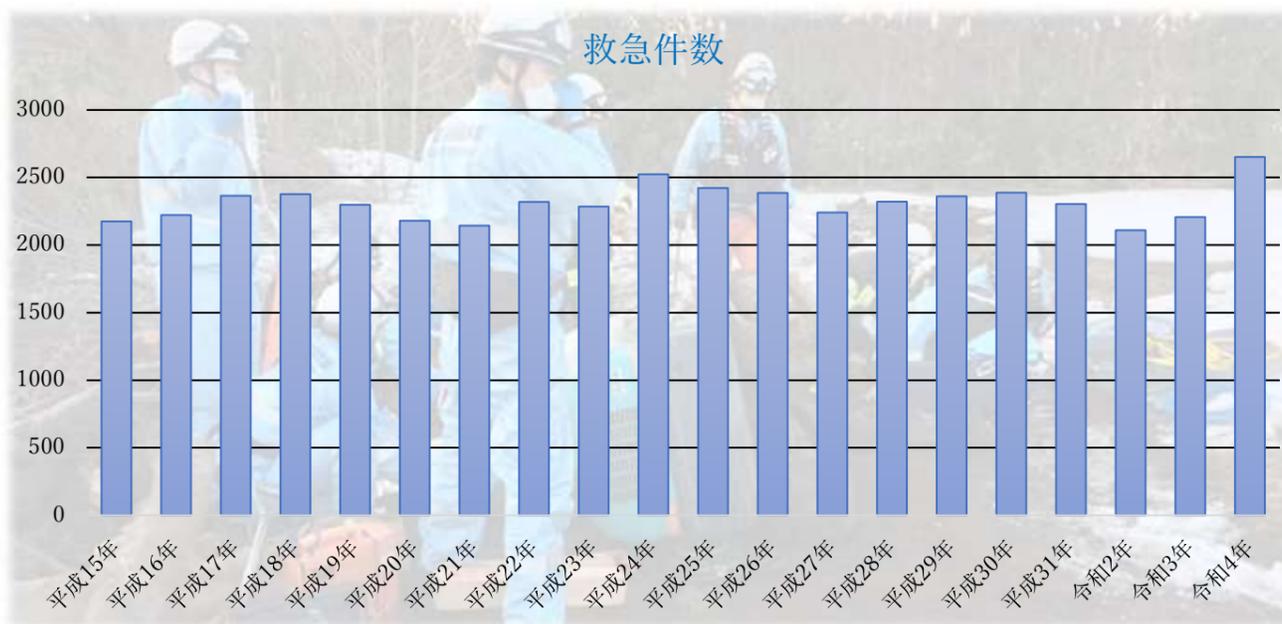
救急活動訓練



秋田大学医学部附属病院ドクターカー



秋田ドクターヘリ(基地病院・秋田赤十字病院)



■ 救助隊

近年の救助事案は、多種多様複雑化しており、専門性のある高度な技術と知識が求められます。災害現場で最善の救助活動を行うため、様々な現場を想定した訓練を実施し、隊員間の連携強化を図りながら、知識と技術を磨き、いかなる災害にも対応できるよう日々精進しています。



山岳救助訓練



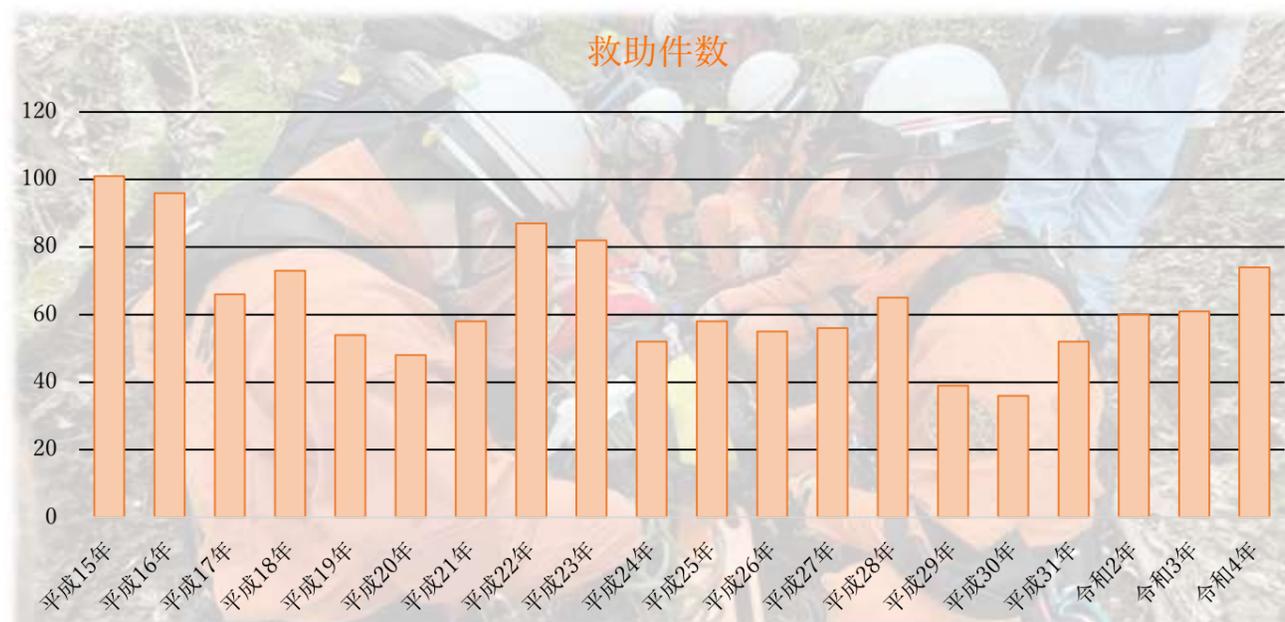
救助隊訓練



救助大会



NBC 災害対応訓練



■ 水難救助隊

海・沼・河川等において発生した水難事故の要救助者を捜索または救助する専門部隊です。水上だけではなく、水中視界の悪い厳しい環境下で活動することもあり、特殊な訓練により高度な救助技術を身に付け、あらゆる水難救助事案に対応します。



水難救助隊訓練



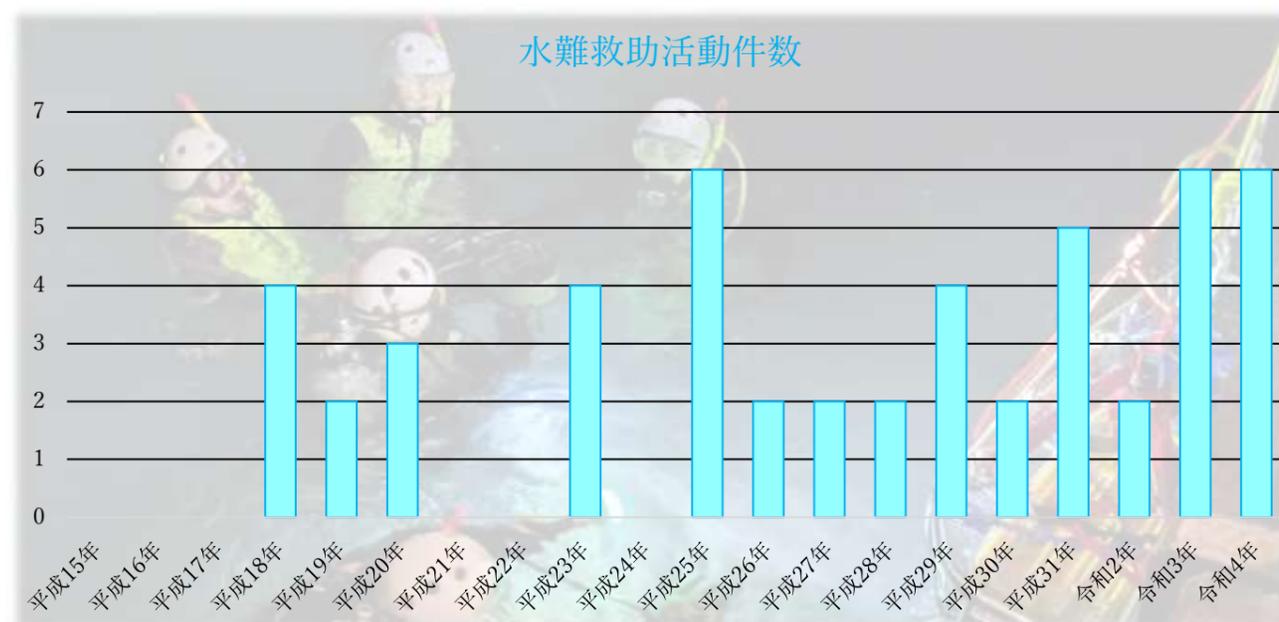
ダイビングプール潜水訓練



潜水訓練エントリーシーン



水上バイク～おに丸～



■通信指令課

通信指令業務は災害対応の中核として緊急通報を受信し、事態の特定を行い最適な車両を選別して出動させ、的確な災害情報を収集し出動隊へ伝達します。現場活動の円滑な遂行を支援するため、高度な通信技術を活用し現場指揮系統を支えます。



通信指令業務



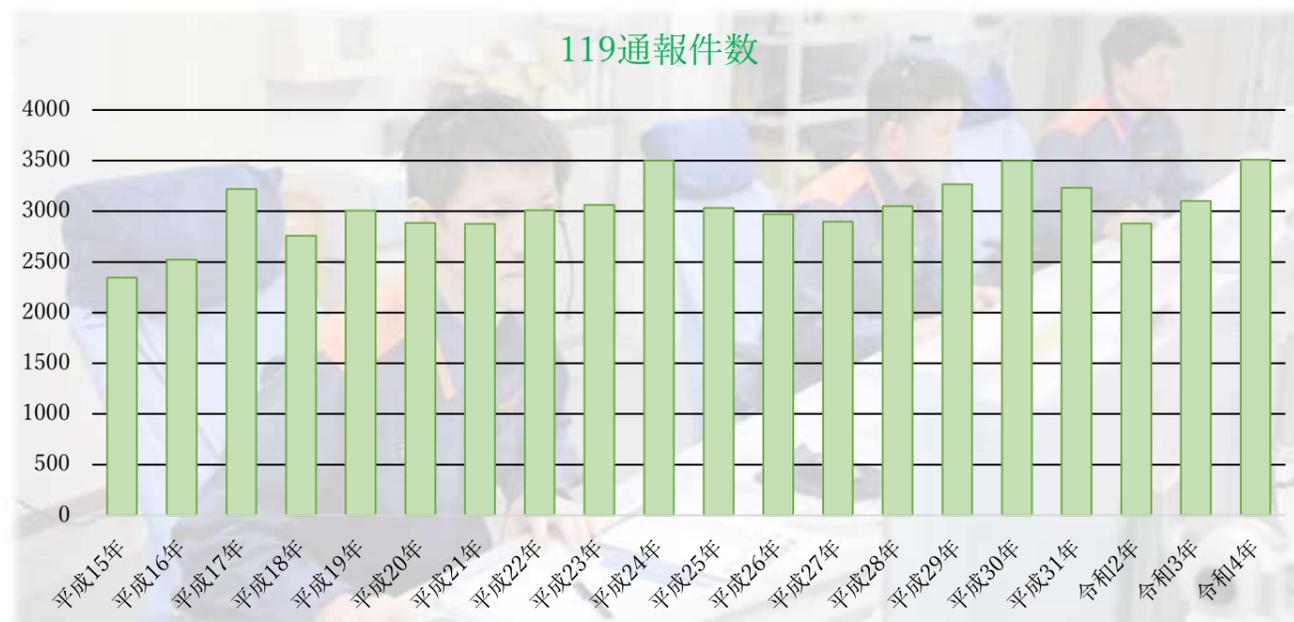
支援情報モニター



指令システム操作パネル



通報内容聴取



■日常業務

地域の安全確保に向けて訓練や資器材の点検、消防車両等の保守を行うとともに、火災の予防や地域住民の救命率向上のため、応急手当の普及啓発などに取り組んでいます。これらの活動を通じて、火災対策や災害時の警防計画を整備し、安心安全なまちづくりを推進しています。



秋田周辺救命技術大会



消防長訓示



車両点検整備



救命講習



コラボイベント



消防ふれあい広場



防火対象物立入検査



職場体験・庁舎見学



外部講師による研修会



消防団操法大会



住警器 PR 活動



職員意見発表





Fire chief
消防長

Nobuaki Watanabe
渡部 伸明

50周年を迎えて

昭和48年6月1日に1市2町1村により男鹿地区消防一部事務組合が発足し、本年で50年という大きな節目を迎えることができました。職員定数80名で開始され、長い歴史を経て現在は1本部1署6分署、職員定数150名体制へと発展し、消防力の充実強化が図られて来たところです。これもひとえに住民の皆様をはじめ、関係されてきた皆様の深いご理解と暖かいご支援の賜物であり、衷心より感謝を申し上げます。歴史の重みを感じ、これまでの半世紀に思いを馳せれば、先輩諸兄が幾多の苦難を伴う災害活動に果敢に挑み、地域の安全と安心を守り抜いて来られたことに、心から敬意を表するものであります。

刻々と取り巻く環境が変化する中、消防の任務は益々多様化し、求められる期待や信頼はより大きくなっていくものと感じております。これまでに築き上げられた消防の根幹をなす精神や教訓を継承し、柔軟で多角的な視点をもって、次の50年へと踏み出す決意でございます。

結びに、関係者皆様のご尽力に改めて感謝を申し上げますと共に、なお一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



50th anniversary magazine

発行年月 2024年3月

発行者 男鹿地区消防一部事務組合
〒010-0511 男鹿市船川港船川字海岸通り 2-12-7

スタッフ 資料担当 浮田友勝 渡部純也 菅原英樹
文章担当 今津谷健
編集担当 鈴木真樹 児玉英樹 眞壁英男
画像担当 加藤伸也 大関貴博 鈴木孝
予算担当 福原将司 谷口寿

印刷製本 株式会社男鹿なび

写真提供 男鹿市 潟上市 大潟村 株式会社男鹿なび

本書の文章・画像等の内容の無断転載及び複製等の行為はご遠慮ください。



男鹿地区消防一部事務組合

〒010-0511 秋田県男鹿市船川港船川字海岸通り2-12-7
TEL.0185-23-3139 FAX.0185-24-4161



<http://oga119.jp/>